



1. 第26回全国大会・開催報告（2018年10月6日(土)、東京大学）

2018年10月6日(土)、東京大学大学院情報学環 福武ホールにて、第26回全国大会が開催されました。ご参加頂いた多くの方々、開催に当たりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。以下にて、大会プログラムの概要をご報告いたします。

- ◆開会式：10:00～10:10 挨拶：大会実行委員長/会長 須藤 修
- ◆午前の部 研究発表会：10:10-11:40
 - <統一テーマ：情報文化学の確立に向けて>（会場：福武ラーニングスタジオ1）
 - <情報社会>（会場：福武ラーニングスタジオ2）
 - <情報文化と地域>（会場：福武ラーニングスタジオ3）
- ◆基調講演：13:00～14:10（福武ラーニングシアター）
 - 講 師：伊藤 直哉（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 教授）
 - テーマ：巨龍が日本を買い尽くす日
—精緻化見込みモデル(ELM)で解き明かす「爆買い」から「越境EC」の裏側—
- ◆総会：14:20～14:50（福武ラーニングシアター） 報告：須藤 修（情報文化学会 会長）
- ◆午後の部 研究発表会：15:00-16:30
 - <情報表現>（会場：福武ラーニングスタジオ1）
 - <メディア産業>（会場：福武ラーニングスタジオ2）
 - <公共情報>（会場：福武ラーニングスタジオ3）
- ◆閉会式：16:40～16:50 会場：福武ラーニングシアター 閉会挨拶 須藤 修（東京大学 開催校代表者）
- ◆交流会：17:00～18:00

2. 第26回 通常総会のご報告

第26回通常総会（議長：須藤 修 会長）において、以下の報告がなされ、議案（審議事項）が承認された。

1. 報告事項

- 1.1 2017年度全国大会
- 1.2 2017年度の委員会・支部・部会の活動等
 - (1)学会誌とニュースレター
 - (2)委員会活動
 - (3)支部・部会活動
- 1.3 委員会の委員長の空席について
- 1.4 定款及び規定等の見直しについて
- 1.5 役員会名簿の整備について

2. 審議事項

2.1 2018年度活動計画案の承認について

(1) 第27回全国大会開催 (2) 学会誌・ニューズレターの発行 (3) 支部・研究部会の活動

2.2 総務委員長の承認について

本田正美氏の総務委員長への就任が承認された。

3. 2018年度予算案の承認について (下記参照)

3. 2017年度 会計報告

2017年度 収支決算書 (自2017年4月1日 至2018年3月31日)

収入の部 科目	金額 (単位:円)	差額 (予算-実績)
入会金・会費	901,000	-699,000
広告協賛金	735,000	-400,000
大会参加費	420,000	120,000
学会誌・抜き刷り料	45,000	-55,000
雑収入	20,023	—
前期繰越金	4,747,200	—
収入合計	6,868,223	-1,034,000

支出の部 科目	金額 (単位:円)	差額 (予算・実績)
印刷製本費	1,032,885	267,115
事務処理費	16,823	33,177
サーバレンタル費	40,297	19,703
発送費	97,252	52,748
交通費	64,000	13,870
会議費	6,000	64,000
消耗品費・雑費	11,311	-146,599
大会運営費 会場会議費	392,601	27,399
支出合計	1,661,169	488,831

2018年度 収支予算書 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)

収入の部 科目	予算額 (単位:円)
入会金・会費	1,600,000
広告協賛金	90,000
大会参加費等	280,000
学会誌採録料	80,000
収入合計	2,050,000

支出の部 科目	予算額 (単位:円)	備考
印刷製本費	1,300,000	学会誌・予稿集他
事務処理費	50,000	
通信費	60,000	サーバ管理費他
発送費	120,000	学会誌封入発送費他
交通費	70,000	
研究・会議費	50,000	支部活動・委員会等
消耗品費・雑費	20,000	
全国大会運営費・ 会場会議費	280,000	
支出合計	1,950,000	

4. 2018年度 支部・部会報告

関東支部 研究会

開催日時：2018年8月20日（月）13：00～17：00，会 場：東京工科大学 蒲田キャンパス

中部支部 研究会

開催日時：2018年9月22日（土）13:30～16:30，会 場：名古屋大学情報学研究科

九州支部 研究会

開催日時：2019年2月11日（月・建国記念日）12:55～16:30，会 場：鹿児島工業高等専門学校

関東支部 研究会

開催日時：2019年2月18日（月）13：00～17：00，会 場：東京工科大学 蒲田キャンパス

MOT 部会

開催日時：2019年3月22日（金）18：00—20：00，会 場：野村総合研究所

北海道支部 研究会（予定（2019年4月23日時点））

開催日時：2019年5月25日（土）13:00～16:00，会 場：北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

5. 第27回全国大会開催のご案内

第27回全国大会は2019年10月5日（土）に、東京大学情報学環・福武ホールにて開催いたします。発表のエントリー方法、発表原稿等の受付方法は下記をご参照ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。なお、本年は役員選挙が実施されます。

5.1 統一テーマ、会場について

* 統一テーマ： AI と情報文化

* 日 時： 2019年10月5日（土） 9:30～17:30

* プログラム： 開会式，研究発表，基調講演，総会，閉会式，交流会

* 会 場： 東京大学情報学環・福武ホール（〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1）

アクセス：<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/>

* 大会参加費： 5,000円（一般会員），3,000円（学生会員・参事会員），5,000円（非会員）

* 交流会費： 5,000円（一般会員），3,000円（学生会員・参事会員），5,000円（非会員）

5.2 発表のエントリーについて

(1) エントリー期間／受付先

① 受付期間：2019年6月1日（土）～7月29日（月）

* 注意：この期間以外での受付は一切致しません。予定発表数を越えた場合、その時点で受付を終了致します。

② 受付先： taikai@jouhou-bunka.jp（全国大会 発表申込・受付担当 宛）

(2) エントリー資格について

① 著者のうち少なくとも一名は本学会の正会員（一般会員，学生会員）である必要があります。

② 学部生や大学院生が第一著者や登壇者になることは妨げませんが、その場合には、エントリー時に指導教員の連絡先も対応責任者の連絡先と合わせて届出して下さい。

③ 会場の都合により発表可能件数が限定されるため、一人で複数の発表の第一著者や登壇者になることはご遠慮願います。

(3) ご提出物：「発表予稿論文」

① メール本文に「対応責任者の連絡先」を明記してください。

*注意：例年と異なり、エントリー時に発表予稿論文の提出が必須となります。提出後の変更は一切受け付けません。

②会場および運営上の都合により、口頭での「一般発表」しか受け付けておりません。

③発表の順番・時間帯についての希望は受け付けられません。

④プログラムなどには、第一著者の氏名と所属のみを記載します。

(4) 発表予稿論文について

①原稿の様式：A4 で 2 枚～4 枚 「MS-Word 版」と「PDF 版」、両方をご提出ください。

②論文の提出を願います。カメラレディ版の提出を願います。

③論文であれば形式は自由ですが、図表についてはモノクロで印刷されることを考慮の上で作成をお願い致します。

④提出して頂いた原稿につき、形式上・内容上で本大会の趣旨から著しく逸脱したものと実行委員会が判断した場合には、発表を受け付けない場合があります。

6. 『情報文化学会誌』への論文投稿

<各号の締切日>

各巻第 1 号への投稿：3 月 15 日 (消印有効)

各巻第 2 号への投稿：7 月 10 日 (消印有効)

詳細は、学会ウェブの「学会誌」のページ、および下記の URL をご参照ください。

(<http://jouhou-bunka.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/11/tokokitei180511.pdf>)

「JICS 便り」名誉会長 片方 善治 —情報文化空間という視座の再認識—

かつてサイバー空間が普及し始めた頃、セキュリティやプライバシーの問題は軽視されていた。この問題に対して、先頭に立って言及したのは当学会である。他の多くが、サイバー空間を工学的立場から取り組んでいたのに対し、当学会では情報文化空間というコンセプトを大事にして、さまざまな情報にかかわる問題解決に取り組んでいたのである。情報文化空間は、理念系・人間系・施設系によって構成される。したがって、サイバー空間を見るときも、それがどうあるべきかという根本的な考え方、いかなる場合でも人間が起点、インターネットは施設系に位置づけるという視座に立つ。このような取り組みが、前述のような行動や言及になったのである。AI や 5G がサイバー空間を進展させているとき、情報文化空間という視座を、再認識することをおすすめしたい。